

2003

グリーン・レポート

(環境安全報告書)

Environmental Report

KANBO PRAS

ごあいさつ

「21世紀は環境の世紀」として、地球温暖化に対する国際的な認識の広がりとともに、CO₂など温室効果化ガスの排出権取引やディーゼル排ガス規制など環境への対応の必要性が急速にクローズアップされてきております。これからの企業の役割は、製品安全と環境への負荷を配慮したより豊かな社会の実現へと、成長から持続へのパラダイムの転換が要求されておりその社会的責任も重く受け止めています。

当社は、昨年環境安全中期目標(2005年)を設定致しました。環境問題への取り組みは企業の存続と言う観点からしても「環境経営」の視点で対処すべき避けて通れない大きな課題、問題と位置付け、本年度からスタートする新中期経営計画「レボリューション2006」では、会社の財産であるお客様、商品、従業員の意識変革を仕組み、経営計画との整合性を高め、グループ会社との連携を強めることと致しました。

「環境のカンボウ」を謳い、技術立脚型の企業を目指して、地球環境に優しいモノづくりを推進しています。グリーン購入法や各種リサイクル法の整備により環境にやさしく使用後も環境負荷の少ない製品(オレフィン系)などの環境ラベル化が進みエコプロダクツが推進して非塩ビ樹脂へのマーケットは着実に拡大してきております。また、使用資源やエネルギーの効率化(省エネ)を始め有害化学物質の削減・代替化を進めるとともに、廃棄物ゼロ「ゼロエミッション」の達成を目指して、皆さんと共に取り組んでいきます。

今後とも、当社が企業活動の中で、どれくらい環境に負荷を掛けているのか、どの程度環境を汚し、社会に迷惑を掛けているかなど、項目毎に出来るだけ情報を数値化し判り易くして社員の皆様、社外の人々にその情報を公表し公開してまいります。

当社としては、情報を公開すること自体が企業の説明責任(社会的責任)となりますし、より世間の信頼を得ることに繋がります。地球環境改善といった時代の流れの中で避け難い大きな課題を、循環型社会の構築に中で取り組んで行く考えであります。

その実現に向って、皆様方お一人おひとりの忌憚のないご意見、提案を節にお願いし、その参画を期待しております。



2003年10月

カンボウプラス株式会社

代表取締役社長 柏田 民夫

会社概要

会社名 カンボウプラス株式会社

設立年月 1939年3月

資本金 10億2030万円

従業員数 152名

事業所

- ・本店 〒541-0059
大阪市中央区博労町 1-6-9
電話(06)6262-1277 (代表)
- ・東京支店 〒103-0012
東京都中央区日本橋堀留町 2-1-3
電話(03)3661-5311 (代表)
- ・福井工場 〒103-0012
福井県鯖江市御幸町 1-1-48
電話(0778)51-6111 (代表)

主要事業

- ・各種繊維品・フィルムの樹脂加工
- ・土木資材・防災資材各種化成品
- ・サインメディア販売、設計・施工

年間売上高 (連結) 116億円

売上構成

- ・産業資材関連 68%
- ・生活資材関連 31%
- ・その他 1%

連結子会社

- ・朝日加工(株)
- ・ニッセンソフテック(株)
- ・大町工業(株)
- ・カンボウ企業(株)

もくじ

* <u>表紙</u>	
* <u>1 あいさつ</u>	1 頁
* <u>2 会社概要</u>	2 頁
* <u><トップとの対談></u>	3~6 頁
* <u><新規開発商品の紹介></u>	7~8 頁

環境保全に関する方針・目標

* <u>3-環境安全基本方針</u>	9 頁
* <u>4-活動のまとめ</u>	10 頁
* <u>5-環境保全活動の歩み</u>	11 頁

環境マネジメント

* <u>6-環境安全管理体制</u>	12 頁
* <u>7-環境保全推進システム</u>	13 頁
<u>ISO14001対応</u>	

環境パフォーマンス

* <u>8-環境負荷の全体像</u>	14 頁
* <u>9-公害防止への取り組み</u>	15 頁
* <u>10-化学物質対策</u>	16 頁
* <u>11-廃棄物対策</u>	17 頁
* <u>12-省エネ、CO₂・用水対策</u>	18 頁
* <u>13-エコプロダクツの推進</u>	19~20 頁
* <u>14-環境会計の導入</u>	21 頁
* <u>15-グリーン購入の促進</u>	22 頁
* <u>16-環境コミュニケーション</u>	23 頁
* <u>17-子会社紹介</u>	24 頁
* <u>裏表紙</u>	

当レポートの掲載対象範囲

この冊子は、カンボウプラスの2002年度（2002年4月1日から2003年3月31日）の取り組み状況を2003年度にまとめたものです。

特集 対談

「環境のカンボウ」としての企業姿勢を知る！！

21世紀は「環境の世紀」です。企業も持続可能な循環型社会の一員として存続していくためには、環境や自然、地域社会との共生が不可欠になっています。

そのアクションを興すのは「人」です。今後カンボウグループとして積極的に環境保全活動や環境に貢献する事業の展開を図ることが必要です。

今回は、特集として「環境のカンボウ」としての取組みについて柏田社長を迎えて「グリーンカンパニー」づくりへの姿勢について話を伺いました。



出席者

- 柏田 民夫 (代表取締役社長)
 - 鈴木 仁一郎 (製造部設備課 係長)
 - 飛田 浩 (製造部製造技術課)
 - 福島 聖倫 (司会:製造部門長付 PL・ISO 担当)
- (写真右から柏田社長、鈴木課員、飛田課員)

司会: 昨年より発行の「グリーン・レポート2002」について、それぞれの評価はどうですか。

鈴木課員: 当社の「環境報告書」は2001年度からの作成を始めましたが、2002年度にはPL(製造物責任)も含めた総合的な報告書に進化させて、「グリーン・レポート2002」を社会に向けて発行したことは大いに評価できると思いますね。



柏田社長:温暖化問題を始め、今や企業も地球環境問題について正面から取り組む時代になってきています。そんな中、当社が今回PLとISOとの結合の集大成として「グリーン・レポート2002」を作成・発行し社会に向けて発表したことは大きな社会的意義があったと思っています。それは、企業の社会的責任のひとつではないかとも受け止めています。

飛田課員:私も社長と同意見ですね。地球環境問題を無視しては、今後企業の存続は有り得ないと考えます。外部への発行は、当社として多いに評価出来ると思います。

司会:今後、当社の環境への取組みの具体的な推進にあたっては、環境安全目標と4月からスタートした中期経営計画との整合性が、大きなポイントとなって来ます。特に「エコプロダクツ（環境対応商品の開発と提供）の推進」には加工メーカーとしての姿勢と存在とが問われるところです。

それぞれの立場で、この点について、どのように受け止めどう進めたら良いかをお聞きかせ下さい。

柏田社長:今年4月からスタートした「中期経営計画書」(レポリビューション2006)では、会社の財産(お客様、商品、従業員)を変革するとともに「環境のカンボウ」を合言葉に環境に優しい製品を提供し 環境への配慮 開発力の向上とスピードアップ を図ることになっています。そこで、問われるのが企業として継続してどのように環境保全を進めて行くかです。活動を通じて利益を創出する事業(「環境経営」)にして行く必要があります、計画書の「エコプロダクツ」に具体的な数値で目標を設定したのはそういう理由からで、これらは全て「環境安全目標」と整合するものです。

鈴木課員:私の場合は、工場設備関係の立場から、福井工場の環境対策は、レベルアップを図る段階にあると思いますし、環境経営を導入される計画でしたら「環境会計」を活用すべきです。今の現場の感覚では「何か事故発生」しないと行動しない。これでは駄目で、やはり、危険の兆候の段階での事故対策を未然に講じるようなシステムにするべきです。現場での省エネ対策は、資源のムダを減らし環境負荷も少なくすることであり、さらに事故反の減少にも繋がると言うことではないでしょうか。



飛田課員:私は、工場で製品を開発する立場にあり、日々の仕事の中で、物のグリーン化、エコプロダクツをどう進めるかを思案しています。「非塩ビ化」が、なかなか進まないのは物が出来

でも「売れない」からではないでしょうか。しかし、「ノン環境ホルモン」対策商品の開発を担当していて、いろいろ対策を講じることで確実に当社も環境意識は変わって来たと感じますね。

柏田社長：確かに開発のスピードは遅いかもしれませんが「非塩ビ化」は、着実に進んで来ています。環境対応商品を開発しても今直ぐには売れなくても、工場がいつまでも塩ビ加工を生産している限り将来の展望は生まれて来ません。今回、E L機（押し出し機）を導入したのも将来への投資ですし、製販一体となってオンリーワン商品（PP商品）の早期製作と関連商品（高機能、高付加価値商品等）の拡販を図るのも将来への投資です。第一の基本は、お客さまに安全で安心して使って貰う商品をどう提供し続けるかなんです。そのためには「開発の人材を拡充する」のと「自己技術を高める企業風土」を育てて、コストと機能性を付与した差別化商品の開発提供が加工メーカーとしての使命と考えています。

司会：お客さまへの満足度の向上をはじめ、利害関係者へのサービス（情報開示や説明責任）が重視されてきています。今後の従業員への啓発や環境行事の参加等、社会貢献への取組みについてはどうですか。

鈴木課員：当社も、「環境報告書」の公開（グリーン・レポート、HP（ホームページ））や工場サイドでの地域自治体への環境活動の参画などを行っていますが、折角の活動がまだまだ知られていないと思いますね。

これは、われわれ事務局も含めた問題でもありますが、会社全体として、ISO 14000の内部コミュニケーションを進め、さらに外部コミュニケーションをも一層深めていく必要があります。

飛田課員：今や世界はIT社会です。私は、当社エコ関連の情報をHP（ホームページ）で充実、アピールさせれば、自ずと環境コミュニケーション推進へと進んで行き、それが一番の方法ではないかと考えます。



柏田社長：年々、企業の社会的責任は拡大するばかりで、当社のお客さまに見えるような組織にして、その満足度をどう高めて行くかは、企業としての基本的課題でもあります。また、多くの利害関係者（ステークホルダー）に情報の開示提供や説明責任が伴う時代でもあり社内外の環境コミュニケーションづくりも、ますます重要で大切となって来ていて、今以上にHP（ホームページ）等で最新の会社情報を開示したり、従業員の環境啓発や教育を地域の行事等と共に取組むことが社会貢献には欠かせなくなっています。

2001年4月より法制化された「グリーン購入」をカンボウグループで導入することも絶好のチャンスだと思いますよ。

これを機会に「グリーンパートナー」を増やして、新しい関係づくりを始めて行きたいですね。

司会: 今後の「グリーン・レポート」へ期待するものはなんですか。

飛田課員:「やって、当たり前」が常識化される昨今、やらなければ企業存続にも影響してくる訳で、死活問題にも関わる事ですから、今後のレポートは、お客さんに興味を持ってもらえるようにしたいですね。

柏田社長:レポートは、継続的に発行してこそ価値がありますし活用できるものです。毎年、発行を重ねて、内容の充実と「持続して社会に貢献」出来ればと思います。身の丈にあったユニークなレポートを期待しています。勿論、まだまだ課題は沢山あるかと思いますが、どう多くの方々にレポートを見て読んで参画して貰えるかですよ。役立つレポートにするには創意と工夫が必要なんです。

司会: 最後に、グリーンカンパニーへの姿勢について一言ずつ。

飛田課員:今やどこの企業も環境問題を会社方針に取り入れ実施しているのが現状で、当社としても「環境のカンボウ」を社会へもっとアピールする事が必要ですね。

鈴木課員:省エネ等は、ISO14001を始めたころよりは改善されて良くなっていますが、近年数値として増加傾向になっている項目もあり、今後も、さらなる改善運動を展開して、社員一人一人が「環境のカンボウ」として、このようなことを行っていると胸を張っていえる企業でありたいですね。

柏田社長:これからは環境・自然と人と人との関係づくりが社会の基本となります。

ピンチをチャンスに、今こそプラス思考(指向)で製販一体となり「技術立脚型の企業づくり」を目指して一緒に行動しましょう。



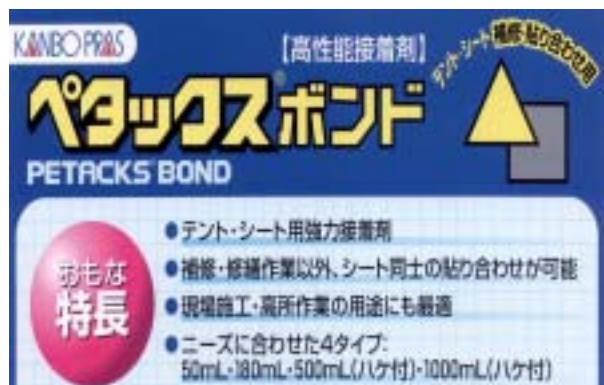
司会: 本日はお忙しい中有難うございました。

今後とも「環境のカンボウ」として、環境コミュニケーションを高めて行きましょう(おわり)



■特性

- 粘着力がすぐれています。
- 素材にポリエステル繊維を使用しているので超強力・防水・耐候性にすぐれています。
- 用途に応じた色選びが可能です。



おもな
特長

- テント・シート用強力接着剤
- 補修・修繕作業以外、シート同士の貼り合わせが可能
- 現場施工・高所作業の用途にも最適
- ニーズに合わせた4タイプ:
50mL・180mL・500mL(ハケ付)・1000mL(ハケ付)

ベタックス® シリコン

ベタックス® シリコンはシリコン樹脂加工したシート専用の粘着テープです。

＜テープの特徴＞

シリコンシートの幅寄せ、穴キズ・裂けキズの補修用、シリコンシートの仮押さえ用として最適なテープです。

ベタックス® オレフィン

ベタックス® オレフィンEVA、PE、PPなどのオレフィン樹脂加工したシート専用の粘着テープです。

＜テープの特徴＞

オレフィン系シートの幅寄せ、穴キズ、裂けキズの補修用として最適なテープです。

ベタックス® エコロン

ベタックス® エコロンはPP不織布をベースにしたオレフィン系シート専用の粘着テープです。

＜テープの特徴＞

オレフィン系シートの幅寄せ、穴キズ、裂けキズの補修用として最適なテープです。

ベタックス® 耐熱断熱テープ

ベタックス® 耐熱断熱テープは、基材にカーボン繊維を使用し、耐熱・断熱性の高い粘着テープです。

＜テープの特徴＞

炉前などの高熱作業場で使用する器具の断熱や、耐熱クロス穴キズ・裂けキズの補修用として最適なテープです。

オールオレフィンの防災タイプが登場

＜特徴＞

- ・ノンハロゲン仕様であるので燃焼時に塩化水素ガスを発生しない。
- ・消防法に合格。
- ・軽い(比重0.9で水に浮く)ので塩比対比30%の軽量化。
- ・オールオレフィンであるのでリサイクルが容易

RR870F RR550F

エコライト PP15000

【特長】

- 優れた耐候性を有したオレフィン系ノンハロゲン素材。
- 優れた耐熱性による高熱作業に対応し、
- 優れた耐水性による優れた防水性能。
- 優れた耐油性による優れた耐油性能。

非塩ビターポリン 溶剤系IJP対応メディア

ポリプロピレン生地にオレフィン系樹脂を両面から貼り合せし、さらに表面に特殊配合インク受理層をコーティング加工したターポリンメディアです。環境負荷の高い、重金属やハロゲン等の物質はまったく含まれておりません。

生分解クロス 溶剤系IJP対応メディア

ポリ乳酸系の生地に生分解性樹脂ベースのインク受理層を表面にコーティング加工した100%生分解機能を持ったクロスメディアです。 ※本製品に使用している生分解性の素材は通常の環境下では20～3年の製品寿命で、メディアとしての耐久性は充分ございます。使用後の土中廃棄では、2～3年で分解が進み、強度低下・形状崩壊します。尚、コンポスト等の高温多湿の条件下に於けると1週間程度で崩壊し、最終的には水と炭酸ガスに分解されます。

非塩ビFFシート 溶剤系IJP対応メディア

ポリエステル生地にオレフィン系樹脂を両面から貼り合せし、溶剤系インクジェットプリンターによる印刷性を考慮したインク受理層コーティングのFFシートです。環境負荷の高い、重金属やハロゲン等の物質はまったく含まれておりません。

環境保全に関する方針・目標

3. 環境安全基本方針

当社では、地球環境と自然保全に対応し地域社会と共生して持続可能な循環型社会を構築するため、これまでのPL（製品安全）宣言から、環境対策との統合に伴い21世紀に相応しい「環境安全宣言」としました。

環境安全宣言

カンボウプラスは、21世紀が循環型社会となり持続可能な発展を続けるため、地球環境と自然保全のために資源保護や環境負荷の低減に努め、環境に優しい製法を確保し、人の健康と物の安全を損なわない製品を提供するとともに、情報開示によりコミュニケーションを高めてグリーンカンパニーとなることを宣言する。
(2002.6.20改訂)

1) 地球環境行動指針

基本方針

カンボウプラスは、地球環境と自然保全に努め、より安全な製品を提供し続けるために「環境のカンボウ」を目指します。

地球環境、地域社会と調和した事業活動を通じて社会的責任を果たすために、次の活動を行います。

環境と安全を最優先課題として事業活動を行う。

持続可能な地球環境改善活動を行う。

地球環境と人の健康と安全に貢献する技術・商品の開発を行う

2) 環境保全に関する課題の推進と中期計画化

当面は、緊急の課題について全社的にその実態を把握し、中期(2005年)の環境安全目標に基づき改善計画を立て具体的に推進して行きます。

(1) 環境負荷低減の努力

有害化学物質の環境への排出量削減

省エネルギーの推進によるCO₂排出量の低減

ゼロエミッションの実現

グリーン購入・調達、グリーン物流の拡大

当社製品の環境負荷の定量化(LCA)

環境に優しい製品(エコプロダクツ)の開発と提供

(2) 情報開示とコミュニケーションの推進

グリーレポートの充実と活用(説明責任)

環境会計の充実

地域社会とのリスクとコミュニケーションの推進

環境保全に関する目標・方針

4. 活動のまとめ(環境安全目標と2002年度達成状況)

2001年、緊急な重要課題について環境安全中期目標(2005年)を設定しました。今回2002年度の達成状況と自己評価を下表に記載しました。順次、グループ会社との目標の共有化を進める計画です。

重点テーマ	目標(2005年)	達成状況(2002年)	自己評価	参照ページ
1. エコプロダクツの推進	1) 環境配慮の加工技術の開発と確立	ノンハロゲン加工確立 非塩ビ商品加工アップ 顔料の脱鉛化を進める 安定剤・撥水剤の環境ホルモン対策		17
	2) 環境保全対策の推進	排ガス・ミスト対策 テント等の臭気対策		18
	3) 環境配慮の製品提供	RRシリーズの拡販		
	4) 自社環境ラベルの作成と活用	自社環境ラベル制定		
2. 省資源・省エネルギーとCO2の排出量の低減	1) 燃料10%削減	多缶ボイラーの導入		16
	2) 電力10%削減	インバータの導入		
	3) 用水10%削減	冷却水の再使用検討		
	4) CO2原単位10%削減	C重油からA重油に		
3. 廃棄物の3RとゼロエMISSIONの推進	1) 廃棄物を10%削減	溶剤廃液の回収使用		15
	2) 3RとゼロエMISSIONの推進	フェンツの有効利用 包装資材の削減		
	3) レスペーパーの推進	用紙購入量を10%削減		
4. 化学物質等の管理と削減、情報提供	1) PRTR法の遵守と報告	PRTRの定期報告		14
	2) MSDSの情報提供	MSDSの作成と提供		
	3) 購入溶剤の削減	代替の開発		
5. グリーン購入の推進	1) 事務用品等のグリーン購入導入	グリーン購入ガイドライン策定、施行		20
	2) 原材料・資材関係のグリーン調達基準の策定	グリーン調達ガイドライン策定と導入		
	3) 化学物質の分類(自主基準)と表示の推進	グリーン調達と負荷物質の自主基準の作成		
6. コミュニケーションの高揚と充実	1) グリーンレポートの定期発行と内容の充実	GR関係データ等の収集体制整備と定期発行		21
	2) 情報公開・開示による環境教育と社内外・地域コミュニケーション	HP、ネットワークの整備と活用 社内環境教育啓発等の計画と実施体制の整備		
7. 環境管理の整備とシステムの充実	1) ISO14001更新	認証更新の定期審査		11
	2) グループ全体に普及	準用と情報共有化		22
8. 環境会計の活用	1) 環境予算の確保と効果アップ 2) 環境会計の活用	予算化と適正効果の推進 会計の経営効果へ活用		19

* 評価: - 目標達成、 - 進行中、 - 遅れ気味、 × - 未着手

環境保全に関する目標・方針

5. 環境保全活動の歩み

当社は、20世紀末の2000年4月に「環境のカンボウ」を謳い上げました。

循環型基本法の公布やグリーン購入法の施行等により廃棄物のリサイクル化が義務付けられ、生産者の拡大生産者責任（EPR）は使用後の製品にまで及ぶようになりました。

21世紀の企業活動は、地球環境や地域社会と持続可能な関係づくりが必要となり、福井工場では鯖江市との新たな取り組みとして環境会計の導入と環境報告書の公表を行い、昨年（2002年）6月全社的に地球環境と自然保全を強調しPL（製品安全）と環境対策を統合して「環境安全基本方針」と「環境安全宣言」の制定・施行しました。また、10月に「グリーンレポート」2002を発行し12月には「グリーン購入」を導入しました。

今年（2003年）4月に「グリーン調達ガイドライン」を制定し、グループ会社を含めて取組んで行くこととなりました。10月には「グリーンレポート」2003を作成し、より多くの利害関係者（ステークホルダー）に情報開示を進めると共に環境コミュニケーションを高め、説明責任（社会的責任CSR）を果たして行きます。

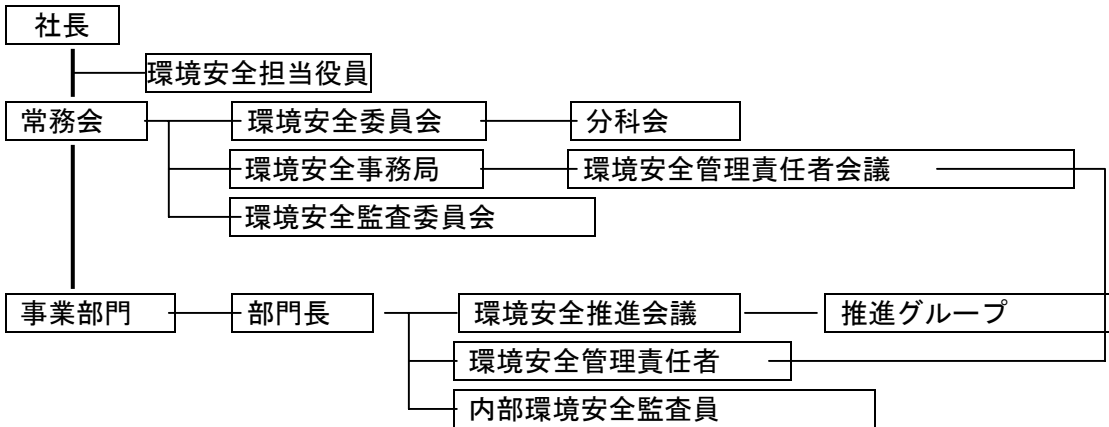
<u>カンボウの動き</u>			<u>社会の主な動き</u>	
1973.	7 本社に環境管理部新設される		1967	公害対策基本法の制定
1974.	7 内規「環境管理規定」制定、施行		1971	環境庁設置
	10 「環境管理のしおり」（初版）発行、配布			
1995.	5 PL マニュアル、PLスローガン制定、施行		1993	環境基本法制定
1996.	6 福井工場ISO 9001認証取得		1997	COP3京都会議
1998.	6 福井工場 環境方針 制定			容器包装リサイクル法
	12 福井工場ISO 14001認証取得			施行
1999.	6 鯖江市MGシステムデザイン会議就任		1999	PRTR 法公布
2000.	4 鯖江市環境ISOネットワーク会長就任		2000	循環型社会形成促進
	「環境のカンボウ」企業イメージを謳う			基本法制定
2001.	2 PL方針、PL指針、PL宣言制定、施行		2001	PRTR 法施行
	3 福井工場、環境会計導入			家電リサイクル法施行
	4 福井工場、環境報告書公表			グリーン購入法施行
2002.	6 「環境安全基本方針」「環境安全宣言」施行		2002	土壤汚染対策法施行
	7 「環境安全目標」制定、施行			建設リサイクル法施行
	8 ISO 9001登録改定（2000版）			
	10 「グリーンレポート」2002発行、配布			
	12 グリーン購入の導入			
2003.	1 福井工場ISO 14001定期審査			
	4 グリーン調達ガイドライン制定			
	11. 「グリーンレポート」2003発行			

環境マネジメント

6. 環境安全管理体制

年3回開催される「環境安全委員会」（委員長は、環境安全担当役員）は、環境安全に関する当社の最高審議機関で全社方針等がきめられます。ここで決定した基本事項は各事業部門毎に具体化実施されます。また、各事業部門には部門長を推進委員長とする環境推進会議を始め、環境管理責任者や内部環境監査員を配置して、それぞれの事業所に適した方針・計画等に基づいた環境安全マネジメントシステムの構築、計画（P）・実施（D）・維持（C）・改善（A）を行ない、環境保全活動を具体的に推進しています。

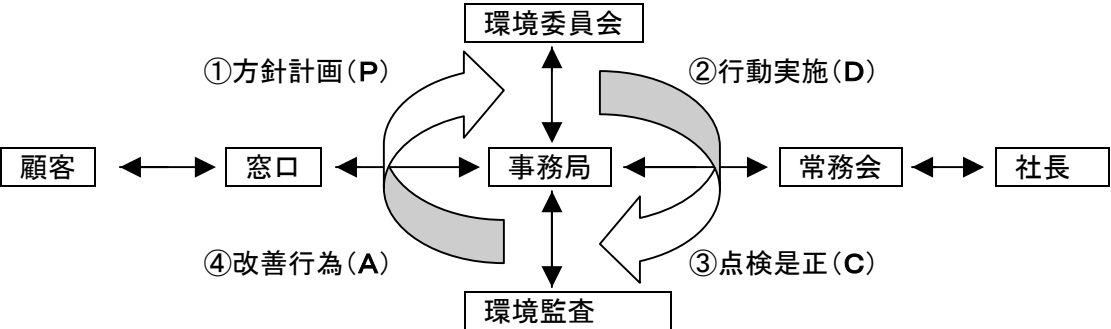
社内組織図



環境安全ラインとサイクル

当社は、「環境安全宣言」にも謳っているように継続的、計画的に環境安全活動を取組み、持続可能な社会を構築し社会貢献して行くため自主的にマネジメントシステムを準用し推進しています。全社的には年度末に点検手順書等内規に基づく「内部監査」を実施し、その報告書を作成するとともに次期の方針・計画、目標等の改定とレベルアップに反映させています。

顧客(利害関係者)から寄せられた環境安全に関する苦情や相談等については、それぞれの部門の窓口で受付け(アドバイスは各管理責任者)迅速かつ的確に対処(ライン)しています。



マネジメントシステムとは、①計画的にP(Plan)⇒②実行D(Do)し⇒③是正C(Check)しながら④改善A(Action)行為する仕組み(サイクル)のことを言います。

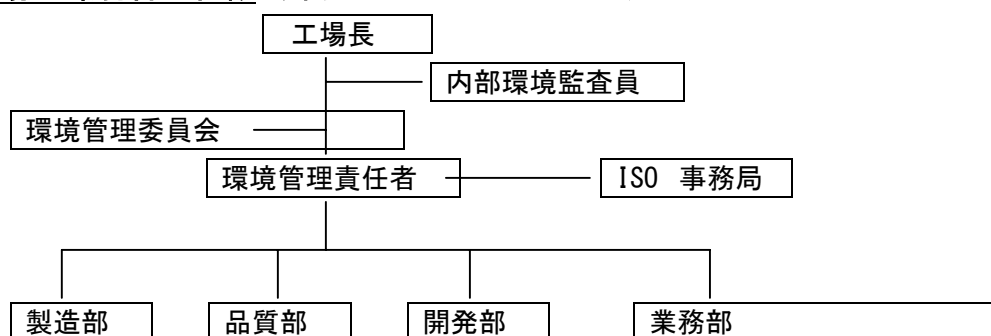
環境マネジメント

7. 環境保全推進システム

ISO 14001 対応

当社・製造部門（福井工場）では、品質管理対策として国際標準化機構（ISO）9001（品質マネジメントシステム）の認証取得を目指し1996年6月取得して製品安全に寄与するとともに、ISO14001（環境マネジメントシステム）をも認証取得（1998年12月）現在、環境目標を設定し環境保全対策（環境負荷物質の軽減等）を推進して、2003年1月には定期審査を終了しています。

・福井工場の環境管理組織（環境マネジメントシステム）



福井工場の環境方針（1998年6月10日制定）

・環境基本理念

当社は、地球環境の保全が人類共通の最終重要課題の一つである事を認識し、企業活動のあらゆる面で、地球環境の保全に配慮して行動します。

・環境基本方針

当社は、テント、ターポリン、帆布及びその他の樹脂加工繊維製品の生産を中心とした企業活動において、環境負荷の低減を目指し、以下の方針に則って行動する。

1. 当社は地域社会と協調し、対話を大切に環境管理活動を通じて社会に貢献する。
2. 当社の事業活動において、省資源、廃棄物の削減、環境負荷物質の管理を行い、汚染の予防を含めた、より良い環境の維持、向上に取り組む。
3. 定期的な内部環境監査の実施により、環境管理活動の実施状況と結果を確認し、環境マネジメントシステムの継続的な改善に努める。
4. 当社の事業活動に関係する環境関連法規制及びその他の要求事項を遵守する。
5. 当社の事業活動に係わる環境側面について環境目的及び目標を設定する。また、環境目的及び目標は環境方針とともに、年1回見直しを行う。
6. 環境方針は環境方針書として文書化し、環境マネジメントシステムにより実行し維持する。
7. 環境方針は全従業員が周知、認識し方針に則って行動するように、全従業員に対する教育、訓練を実施する。

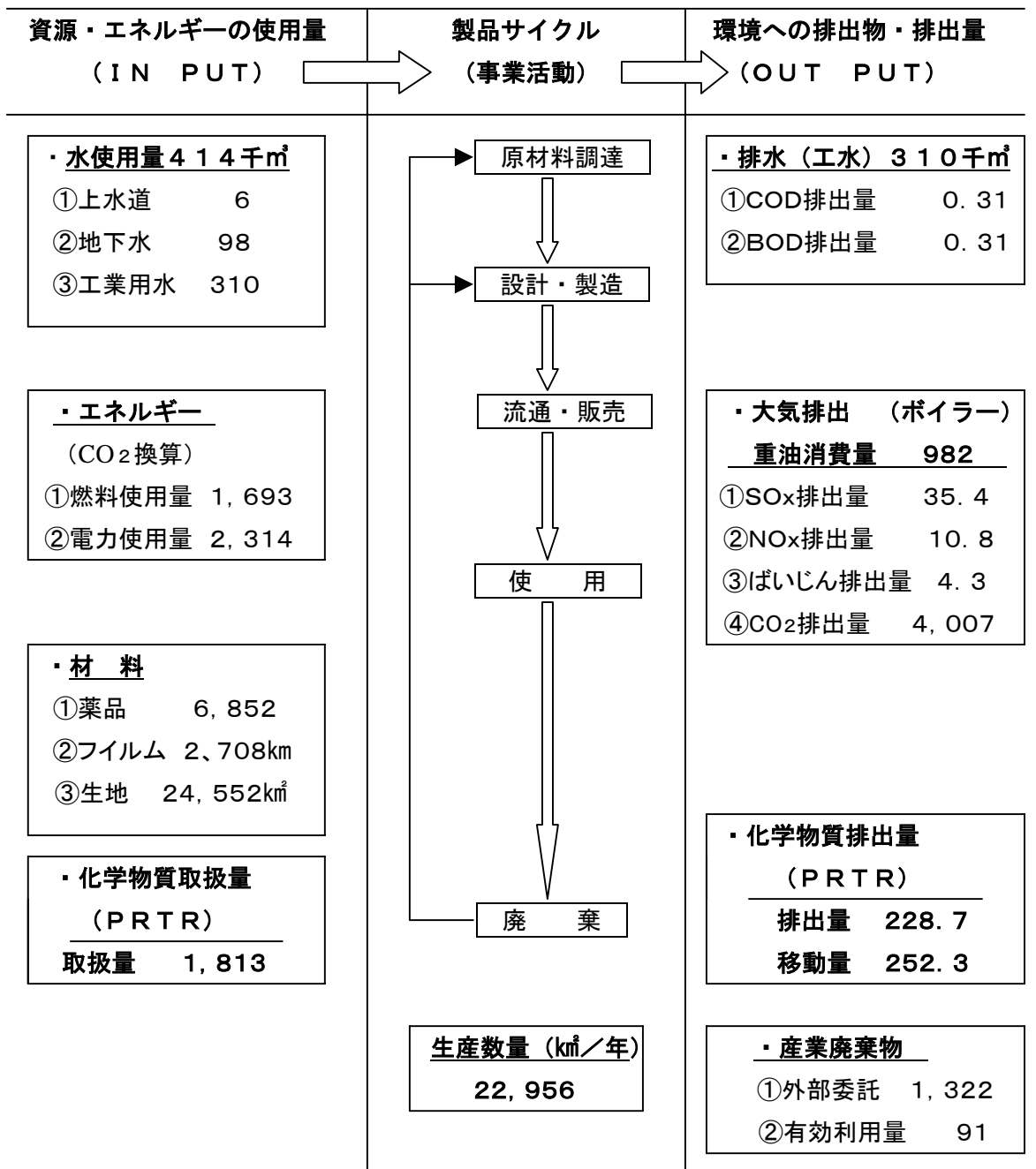
以上

環境パフォーマンス

8. 環境負荷の全体像

当社の製造部門である福井工場は、防火防水樹脂加工メーカーとして設立以来、公害防止対策を始め、環境、製品安全を最優先課題として取り組んでいます。今後、持続可能な循環型社会の構築と地球環境保全を進めるには、事業活動における購入消費している資源、エネルギーの効率化とグリーン購入等の推進や排出している廃棄物、排ガス、排水等の環境負荷の質量について実態を正確に把握し、その負荷の軽減対策とグリーン化を順次講じていきます。

(単位 t / 年)



環境パフォーマンス

9. 公害防止への取り組み

生産事業場である福井工場では、鯖江市との公害防止協定（* 協定に基づく測定、報告（2か月毎）、市条例および現在の環境関連法規制基準等の遵守はもちろんのこと、継続的な改善と効果的処理に取り組み環境負荷の削減と環境保全に努めています。

1) 大気汚染関係（測定日：2003. 3. 12）

施設名	項目	規制値	実測値（前期）	
1-①水管ボイラー	* SOX	(K=100)	平均 360ppm (395)	
	* NOX	250ppm	平均 110ppm (160)	
	* ばいじん	0.3g/Nm ³	0.044g/Nm ³ (0.068)	

2-ガス・粉じん（測定日：2002. 12. 2）

項目	基準値	実測値		
		(1)	(2)	(3)
#測定地点 (No.)		(1)	(2)	(3)
*キシレン	6.0mg/m ³	<0.01	<0.01	<0.01
*トルエン	5.0mg/m ³	<0.01	<0.01	<0.01
*MEK	10.0mg/m ³	<0.01	<0.01	<0.01
*ジオチルフタレート	0.2mg/m ³	<0.02	<0.02	<0.02
*ジブチルフタレート	6.0mg/m ³	<0.02	<0.02	<0.02
*塩化水素	0.2mg/m ³	<0.01	<0.01	<0.01

#測定地点 (No.) ①工場西(道路側)②工場南③工場東(線路側)

2) 水質汚濁関係（測定日：2002. 11. 13）

A) 冷却水・雨水、B) 生活関連、C) 工場排水があり、排水の大半が冷却水で河川に、生活排水はそのまま下水道に、工場排水は処理されて下水道に放流されています。

項目	基準値	実測値			
#排水口 (No.)		(1)	(2)	(3)	
*BOD (mg/L)	B-20		1.3	1.7	1.3
*COD (mg/L)	B-20		1.2	0.7	1.1
*SS浮遊物質 (mg/L)	B-70		3.0	1.0	1.0
*N-ヘキサン (mg/L)	B-不検出		<0.5	<0.5	<0.5

#排水口 (No.) ① 西北 (道路側) ② 西南 (道路側) ③ 東 (線路側)

3) 騒音その他

騒音・振動・悪臭に対する取り組みについては、工場境界線の定められた地点時間帯で定期的に測定、報告を行い、管轄行政、地域住民の皆様にはご理解いただけるように対策を講じています。2002年度は隣接地域からの環境苦情等ありませんでした。

環境パフォーマンス

10. 化学物質対策

当社は樹脂加工メーカーとして、さまざまな化学物質を配合材料として使用しています。化学物質対策として①有害化学物質の代替化や削減等と②原材料調達のグリーン化を取組んでいます。具体的には、顔料の脱鉛化や脱カドミ化、トナーの脱6価クロム化や安定剤・撥水剤の環境ホルモン対策化等は進みましたが、溶剤使用量は増加しました。

1) PRTR 対策

福井工場では、2000年度実績からPRTR法（化学物質管理促進法）に基づくの対象物質（第1種指定化学物質354物質）で該当する10物質の取扱量と排出量・移動量について調査を行い、2002年度の取扱量と排出量・移動量は次のとおりです。

①取扱量：1,813.6 t/年		(t/年)		
化学物質名	①取扱量	②排出量	③移動量	
・アジピン酸ビス（2-エチルヘキシル）		124.5	2.7	11.0
・アンチモン及びその化合物（難燃剤）		136.2	0.0	12.0
・カドミウム及びその化合物（安定剤）		0.6	0.0	0.05
・キシレン（溶剤）		148.6	35.0	61.0
・6価クロム化合物（顔料）		1.4	0.0	0.13
・N、N-ジメチルホルムアミド（溶剤）		19.1	17.0	0.38
・トルエン（溶剤）		155.2	150.0	3.3
・鉛及びその化合物（顔料）	5.8	0.0	0.52	
・フタル酸ビス（2-エチルヘキシル）	1,222.2	24.0	110.0	
*ダイオキシン類			0.11mg	0.013mgTEQ
②排出量：228.7 t/年		③移動量：252.33 t/年		

TEQ（毒性等量の意味で、ダイオキシン類の量を毒性の強いダイオキシンの量に換算して表します）

2) MSDS 対策

PRTR法では、対象化学物質を含有する製品を他の事業者に譲渡・提供する際に、その化学物質の性状および取り扱いに関する情報（MSDS）を事前に提供することが義務づけられています。また、原材料の調達の際にはMSDSを必ず仕入れ先より入手し、当社加工製品の安全データシート（MSDS）の整備と開示・提供に努めています。

3) 溶剤対策

福井工場では、新規溶剤の購入量の削減と代替技術の開発を進めています。

○目標	2001	2002	2003	2004	2005	
使用量	100	98	96	93	90	
○実績	1997	1998	1999	2000	2001	2002
購入量 (t)	378	332	300	336	300	300
	(100)	(88)	(79)	(89)		

環境パフォーマンス

11. 廃棄物対策

1) 工場における取り組み

福井工場では、2001年度使用実績をベンチマークとする環境目標および年度削減目標の達成を目指し、廃棄物の発生を減らすとともに、再資源化の向上と適正処理の維持管理に取り組んでいます。2002年度の廃プラの発生量はフェンツの有効利用で減ったものの廃溶剤は増加しました。(単位：t/年)

○目標	2001	2002	2003	2004	2005
生産量原単位比	100	98	96	93	90
○発生量(有効利用量)	1999	2000	2001	2002	
①廃プラ		1,028(98)	959(95)	1,026(90)	929(52)
②廃溶剤		412(8)	337(14)	385(33)	439(38)
③燃えがら	—		4	6	7
④汚泥	—	—		3	—
⑤紙くず					36

発生量・1413(t/年) = 委託量(1322) + 有効利用量(91)

・産業廃棄物の削減と適正処理管理

福井工場では、2005年度の廃棄物の最終処分量を2001年度ベンチマークとし、減量化の目標値10%以上を削減します。また、自社内で処理できない廃棄物については、委託が確実に処理なされるように産業廃棄物管理票(マニフェスト)制度に基づき、適正処理管理するとともに毎年6月、福井県に「自主管理状況報告書」を提出しています。

2) オフィスにおける取り組み

福井工場では、新たな環境目標および年度削減目標(2005年度)を設定し、レスペーパーを推進しましたが、コピー用紙は増加しました。

○目標	2001	2002	2003	2004	2005
使用量	100	98	96	93	90
○種類と使用量(千枚)	1997	1999	2000	2001	2002
①コピー紙	575	653	605	554	597
②コンピュータ用紙	145	90	54	58	58

3) ゼロ・エミッションへの推進

福井工場は、98年12月に環境マネジメントシステム規格ISO14001の認証取得を機に、廃棄物の3R(リデュース・発生抑制、リユース・再使用、リサイクル・再資源化)を推進し、包装資材の削減等を計画しましたが進展しませんでした。今後、工場から発生する廃棄物が社外で資源化され、埋め立て処分量をゼロにする「ゼロ・エミッション」活動の具体化を進めます。

環境パフォーマンス

12. 省エネ・CO₂、用水対策

地球温暖化防止は21世紀の地球規模で最大の課題です。福井工場では、2001年度使用実績をベンチマークに環境目標および年度削減目標を設定し目標達成を目指し、燃料および電力の効率化を行い省エネルギー対策を推進して、使用原単位の低減による温室効果ガスであるCO₂排出量の抑制に取り組み本年度は目標達成しました。しかし、水使用量についても環境目標を設定しましたが増加しました。

1) 目標と実績 2001 2002 2003 2004 2005

目 標	100	98	96	93	90
(実績)	—	(98)			

2) CO₂排出量 (単位: t/年)

		1997	1998	1999	2000	2001	2002
①燃料	LPG(t)	1,062	852	825	828	870	905
	A重油(t)	26	20	20	2	-	-
	C重油(t)	924	842	835	753	777	788
	計	2,012	1,714	1,680	1,583	1,647	1,693
	(実績)	(100)	(85)	(83)	(79)	(100)	(103)
電力(t)	2,575	1,988	2,760	2,395	2,457	2,314	
(実績)	(100)	(77)	(107)	(93)	(100)	(94)	
総量(t)	4,587	3,702	4,440	3,978	4,104	4,007	

参考: 排出内訳

- ・ 電力購入 60% (動力使用)
- ・ ボイラー 19% (蒸気使用)
- ・ 工程, 処理施設 21% (LPG使用)

3) 水使用量・実績 (単位: 千t/年)

種類 \ 年度	上水道	地下水	工業用水	計	指数
2001	12	47	310	369	100
2002	6	98	310	414	112

○燃料

2001年に比べると3ポイント増え、依然増加傾向にある。燃料転換および生産効率のアップによる削減を図る。

○電力

前年度に比べると6ポイント減少している。現加工のメイン動力のため、より生産効率化を高め削減を図る。

○用水

前年度に比べると12ポイントも増加している。早急に節水対策と冷却水の再使用計画を立てて取組みます。

環境パフォーマンス

13. エコプロダクツの推進

持続可能な循環型社会を迎えて、製造時の省エネや環境負荷の削減および使用時の製品安全性は勿論のこと使用後の商品安全性やリサイクル性についても、企業の社会的責任が拡大して来ています。当社は、樹脂加工メーカーとして高品質性、高機能性の付与を始めエコプロダクツを推進するために 環境負荷低減の製造技術開発 環境保全対策 環境配慮型商品の提供等を最重要課題として取り組んでいます。

「環境のカンボウ」を創出するため4R(REJECT、REDUCE、REUSE、RECYCLE)をキーワードに、地球温暖化防止、省資源や汚染防止等に環境負荷の低減に貢献する環境配慮型商品(エコ商品)の開発提供を促進するためにEL機(押し出し機)の導入し「非塩ビ商品の拡大」を図るとともに、自社制定「環境マーク(ラベル)」を制定しました。

1) 4Rコンセプト

- ・REJECT:法規制、健康への影響物質の不使用(無くそう)
- ・REDUCE:環境負荷の低減(減らそう)
- ・REUSE:(再使用)
- ・RECYCLE:(再生使用)

2) 環境負荷低減のための製造技術開発

環境効果	テーマ	進捗状況	評価
省エネ 省資源	省エネルギー	インバータコンプレッサーの導入	
	燃料転換(C重油からA重油に)	貫流式ボイラーの設置	
汚染防止	顔料の脱鉛化	新規商品は完了	
	安定剤、顔料の脱カドミ化	完了	
	表面処理剤を溶剤から水系に変える	課題多く未解決	
	安定剤・撥水剤の環境ホルモン対策	完了	
非塩ビ	トナーの脱6価クロム	切り替え中	
	PPメッシュ加工の確立	完了(RRシリーズ販売中)	
	ノンハロゲン加工の確立	メッシュ1類は完了	
	EL機の導入	据付中	
	非塩ビ商品の加工比率アップ	数量18ポイント金額で24ポイントに	


3) 環境保全対策

テーマ	進捗状況	評価
排気可塑剤ミスト対策	回収装置(試験中)	
テント臭対策	水系で検討中	

環境パフォーマンス

4) 自社制定環境マーク(ラベル)

環境負荷の少ない環境商品・サービス提供により環境コミュニケーションを高めるため、ISOでは環境ラベルを3つのタイプに分類しています。タイプ1は、第三者認証(ISO14024)したもので日本では「エコマーク」。タイプ2は、自己宣言(ISO14021)で事業者自身が製品やサービスへの配慮を主張するもの。タイプ3は環境情報表示(TR14025)するもので、今回自社制定した「カンボウ環境マーク」は**タイプ3**に該当します。

環境マーク	商品分類	基準
	非塩ビ商品	塩ビ樹脂以外の代替樹脂を使用していることを示す自社制定マーク。
	リサイクル商品	再生材料(リサイクル生機、樹脂)配合率50%以上をクリアしていることを示す自社制定マーク。
	生分解性商品	生分解性材料(生機、樹脂)のみ使用していることを示す自社制定マーク。
	ノンハロゲン(ダイオキシン対策)商品	ダイオキシン発生の影響を及ぼすハロゲン系材料を使用していないことを示す自社制定マーク。
	PRTTR(環境ホルモン物質、重金属)対策商品	環境ホルモン物質等(ダイオキシン類、有機スズ、ビスフェノールA、ノニルフェノール、フタル酸ジ・2・エチルヘキシル)及び重金属(鉛、カドミウムバリウム、6価クロム等有害重金属類)を含まないことを示す自社制定マーク。
	VOC, シックハウス対策商品	シックハウスの原因物質である揮発性有機化合物(ホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、木材保存剤、可塑剤、防蟻剤等)を含まないことを示す自社制定マーク

3) 高機能性付与商品の開発と提供

当社の永年培った軟質塩化ビニール樹脂加工製品・商品等は、お客様のニーズや用途等にマッチし、より安価で高品質(丈夫)で、ご愛用いただいています。環境問題では、塩化ビニール樹脂加工製品が何かと取り沙汰されていますものの環境保全と環境負荷の低減や取り扱いの整備等を促進するとともに、福井工場では永年蓄積してきた製造技術と最新情報を現場技術に活かし、樹脂加工メーカーのオオソリテイとしてそれぞれの用途に最適な高機能性を付与した商品開発と提供に努めてまいります。

環境パフォーマンス

1.4. 環境会計の導入

福井工場では1999年度から環境会計を導入し環境活動に投入される費用の明確化と活動内容の対費用効果を評価・開示しています。2002年度は投資額3.5百万円、費用額105.1百万円の費用に対しての経済効果（省エネ）は2.6百万円となりました。

1. 環境保全費用 (単位、百万円)

項 目	投資額	費用額
1) 事業エリア内コスト		
①公害防止コスト（法遵守、周辺地域への環境対策）	0.0	45.4
②地球環境コスト（CO ₂ 温暖化対策、省エネ活動）	3.5	7.5
③資源循環コスト（省資源、廃棄物管理活動）	0.0	46.0
2) 上・下流コスト（グリーン購入）	0.0	1.2
3) 管理活動コスト（EMS関係、審査、教育、測定、人件費）	0.0	2.5
4) 研究開発コスト（環境配慮型製品、負荷低減の研究開発）	0.0	0.0
5) 社会活動コスト（自然保護、緑化、地域活動、広報、寄付）	0.0	0.5
6) 環境損傷コスト（賦課金、回復・修復費用）	0.0	2.0
合 計	3.5	105.1

2. 環境保全効果

1) 事業エリア内コスト（前期）

①熱エネルギー使用量	1.0%削減 Δ	(6.1%増)
②電気エネルギー使用量	3.1%削減 Δ	(4.6%増)
③コピー用紙使用量	10.7%増 ∇	(1.7%削減)
③コンピューター用紙使用量	0.0%	(10.7%増)

2) 上・下流コスト管理活動コスト

①難燃剤（アンチモン）使用量	9.0%削減 Δ	(14.0%削減)
②安定剤（カドミウム）使用量	21.9%削減 Δ	(10.0%削減)
③顔料（鉛）使用量	13.6%削減 Δ	(10.0%削減)
④有機溶剤 使用量	1.1%増 ∇	(17.5%削減)

3. 経済効果

内 容	金 額
リサイクルによる収入	0.1
リサイクルによる費用の削減	0.0
リサイクルによる処理費用の削減	-0.8
省エネルギーによる費用削減	3.3
レスペーパーによる費用削減	0.0

環境パフォーマンス

15. グリーン購入の促進

持続可能な社会を構築して行くためには「グリーン購入」が求められています。2001年4月より「グリーン購入法」が施行され、国や自治体では目標を立ててグリーン購入に取組み、事業者や国民にも出来る限りグリーン購入に努め環境物品等を選択するとともに、製品メーカー等および環境ラベル団体、国による適切な環境情報の提供するように定めています。

当社の取組みは、2002年12月に「グリーン購入」の制定、導入を開始し、文具等の事務用品についてはグループ会社を含めてグリーン購入を促進することとなりました。また、2003年4月には「グリーン調達ガイドライン」を策定し、グリーンパートナーづくりについて現在取組みを促進中で、今回は グリーン購入基準 グリーン調達選定基準についてご紹介します。

1) グリーン購入基準

エコマーク、環境ラベルのついている商品を優先的に購入する

エコ文具一覧表、カタログ等を参考に購入する

環境保全活動に積極的な事業者により製造され、販売される製品を購入する

分野別購入基準

分野	購入品目	購入要件(基準)	評価
紙類	・コピー用紙 ・コンピューター用紙 ・名刺 ・印刷物 ・社内封筒	・古紙70%以上、白色度80%以下 ・再生紙の利用 ・再生紙の利用 ・再生紙の利用 ・再生紙の利用	
OA機器	・トナー ・コピー機 ・パソコン	・再充填タイプカートリッジ再使用 ・節電機能、部分リサイクル対応 ・省エネ(プリンターも)	
文具類	・事務用品	・再生材料の利用	
照明	・蛍光灯 ・照明器具	・エネルギー消費効率 ・省エネ、インバータ化、ナトリウム灯	×
自動車	・低公害車	・排ガス ・燃費	×
制服、 作業服		・素材がPETボトル再生布を使用 ・回収され、リサイクルされるもの	×

2) グリーン調達選定基準

(1) 取引先(購入先)選定基準

ISO14001の認証を取得済みである。または取得計画がある

グリーン調達を実施している。または計画がある

未取得の場合は、以下の取組みを満たしている(略)

(2) 資材の選定基準(略) 詳しくは、「グリーン調達ガイドライン」をご覧ください。

(3) グリーン基準(自主基準)の策定と表示 <次ステップとして策定、導入実施予定>

3) 物流のグリーン化

取組みが遅れ、次ステップとして策定、導入実施予定です。

環境パフォーマンス

16. 環境コミュニケーションの推進

ステークホルダー(利害関係者)の皆様カンボウの環境保全活動や環境対応商品の開発提供をはじめ地域社会への社会貢献活動等についての情報を広く知っていただき、共に環境コミュニケーションを高めくことが社会的責任となって来ており、当社では「グリーンレポート」の発行やインターネット、各種展示会などによる情報開示を行なっています。

環境安全教育

社内従業員の環境安全マインドの向上を図るため、全国的な週間行事の外に自主的、定期的なアンケート調査を始め研修会の開催や社内報、各種ニュース等の発行を通して啓発啓蒙を実施しています。

グリーンレポートの発行

カンボウでは、2002年10月に初めて「グリーンレポート2002」(環境安全報告書)を発行し、環境安全宣言、方針や環境負荷低減に向けての目標を設定致しました。今後毎年レポートを発行し、HP(ホームページ)にもサイトを設け、多くのお客様にご理解いただけるよう情報の開示を進め、今後は電子メールでの皆様からのご意見ご質問や資料請求にお答え出来るよう体制の整備を強化してまいります。

環境フェア出展・環境表彰

福井工場では、行政(鯖江市)との取組みを進めて来ています。ISO ネットワークの一員として2000年度より開催されている「さばえ環境フェア」には毎年出展し、2001年には地域活動に貢献した企業団体として「環境デザイン賞」を受賞しました。

環境啓発活動

福井工場では、環境教育の一環として環境関連の法定管理資格者を計画的に養成しています。

(2002年4月1日現在)

法定管理資格名称	資格保有者数
大気関係公害防止管理者(1・2種)	6
水質公害防止管理者	4
特別管理産業廃棄物責任者	1
電気工事士	2
衛生管理士	2
ボイラー技師(1・2級)、ボイラー整備士	10
第1種圧力容器取扱作業主任者	3
特定化学物質等作業主任者	10
有機溶剤作業主任者	21
高圧ガス作業主任者(3種冷凍)	1
高圧ガス製造保安責任者	10
防火管理者	1
危険物取扱主任者(甲種、乙種2・4)	24
乾燥設備作業主任者	12
酸素欠乏危険作業主任者	2

環境パフォーマンス

安全衛生管理

福井工場では、毎月、安全衛生委員会の開催し安全衛生パトロール等を実施しています。

2002年2月「安全管理特別指定事業所」の指定(前回1998年)を受けました。理由は2001年度に3件の休業災害が発生したことによるもので、労災撲滅に向けて「安全衛生改善計画書」を作成し実行しました。労災事故の再発防止対策や改善計画等を実施した成果として2002年度は、死傷災害等が発生していません。

労働災害の発生状況

年度	死亡災害 件数(件)	休業災害 件数(件)	損失日数 (日/年)	度数率	強度率
2000年(H12)	0	2	42	7.75	0.16
2001年(H13)	0	3	44	11.38	0.17
2002年(H14)	0	0	0	0	0

17. 子会社の紹介

当社との連結子会社（グループ会社）で生産事業部門を有する朝日加工（株）、ニッセンソフック（株）、大町工業（株）の3社があり、各社とも法規制基準の遵守は勿論のこと環境負荷低減を取組んで参りましたが、10月1日付でニッセンソフック（株）は営業を朝日加工（株）に譲渡し、解散。更に大町工業（株）を解散してカンボウプラス（株）に一元化しました。

今回は、朝日加工（株）阪和工場の事業内容と第二事業部が販売しています環境対策・省エネ機器の2件についてご紹介します。

- ・所在地 大阪府泉北郡忠岡町北出2-17-20（☎0725-32-5781）
- ・事業内容 繊維・不織布製品の染色、鞆・袋物等の生活資材関連製品の受注加工・商品販売

（1）臭気、粉じん、油煙対策機器「ケスマック」

- ・工場内外の環境改善対策に最適です。

（2）簡易型排熱回収機器

- ・染色工場等の中低温で夾雑物の多い排水の排熱回収には最適です。

（特長）①メンテナンスにほとんど手間がかからない

②運転中に簡単かつ短時間に掃除できる

③安定した熱回収効率が維持できる

④高耐久性である

⑤低価格で、投資回収も可能である



お問い合わせ

カンボウプラス株式会社

〒541-0059 大阪市中央区博労町一丁目6番9号

tel 06-6262-1277 fax 06-6262-9419

本社 管理部人事課

home page <http://www.fcc.co.jp/kanbopras/>

2003年11月発行